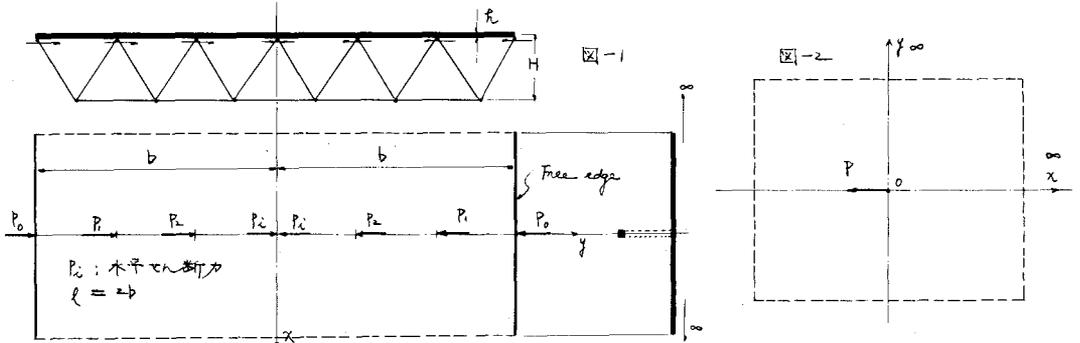


合成トラス床版の有効中について

大阪市立大学工学部 正員 倉田 宗章
 桜田機械工業 K.K. 〇安岡 富夫

1. まえがき. 合成トラス構造は, ①トラス上弦材をコンクリート床版と合成したものと②上弦材の代りにコンクリート床版を用いてトラス上弦材を省略したものと大別される. これらの構造で床版のトラスとの協働中をどの ように決めたほうがよいかという問題について先づ比較的簡単な後者②を選び図1のような単独T型梁を形成する場合の基礎的検討を行なった.



2. 解析方法. 解析を行なうに当って次の通り仮定した. ①床版はトラス軸と直交な方向(x軸)に無限長を併す. ②床版の厚さtは桁高に比べて小さいから板としての曲げ剛度は省略する. ③トラスと床版とはトラス格梁のヒンジで連結している. たゞトラス格梁で版に作用する水平せん断力は床版の中立面に作用するものとしこの曲げは省略する. ④荷重はトラス面内の格梁に作用するものとする. 以上の仮定から任意の荷重状態でトラスの断面力を決めることが出来, 結局この問題は格梁に水平せん断力が作用した時の版の応力分布を定めるという平面応力問題に帰着させ Airy の応力関数を用いて比較的簡単に解析出来る. すなわち'版内に対称な水平せん断力が働く場合(荷重は対称)と, 非対称に作用する場合(非対称荷重)とについて各々の応力関数を求めねばよい. 1のせん断力対称の場合の版応力を与える解は K Girkmann が与えているのでこれを使用し非対称の場合には Girkmann の考え方を拡張して応力関数を求めてやった.

a. 1. 版内に対称せん断力が作用する場合(図3)

図2の無限長の座標軸原点上に集中荷重Pが作用した

時の応力関数 F_1 は

$$F_1 = \frac{1+\mu}{4} \frac{P}{\pi h} \int_0^{\infty} \frac{1}{\alpha^2} \left(\frac{1-\mu}{1+\mu} - \alpha y \right) e^{-\alpha x} \sin \alpha x \, d\alpha \quad (1)$$

ここに μ : ポアソン比, α : $\frac{\pi}{2}$. 図3で周辺を無限とした場合の応力関数は(1)式の座標変換と重ね合わせにより

$$F_2 = \frac{1+\mu}{4} \frac{P}{\pi h} \int_0^{\infty} \frac{1}{\alpha^2} \left(\frac{1-\mu}{1+\mu} - \alpha x \right) e^{-\alpha x} \{ \sin(y-c) - \sin(y+c) \} d\alpha$$

$$= -\frac{2(1+\mu)P}{4} \frac{1}{\pi h} \int_0^{\infty} \frac{1}{\alpha^2} \left(\frac{1-\mu}{1+\mu} - \alpha x \right) e^{-\alpha x} \sin \alpha c \cdot \cos \alpha y \, d\alpha \quad (2)$$

次いで $y = \pm b$ の境界条件を満たすためにもう一つの応力関数 F_3 を求めなければならぬ. F_3 は x, y についての偶関数で $F_3 = \int_0^{\infty} \frac{1}{\alpha^2} (A \cosh \alpha y + B \operatorname{Bi} \cosh \alpha y) \cos \alpha x \, d\alpha \quad (3)$ A, B は境界条件から決める係数である. $\frac{\partial^2 F}{\partial x^2} = \sigma_y, -\frac{\partial^2 F}{\partial x \partial y} = \tau_{xy}$ から $(\sigma_{y2} + \sigma_{y3} = 0, \tau_{xy2} + \tau_{xy3} = 0)$ at $y = b$ の条件から

シ A, B は次のように求め、結局版内の応力応力関数 F_2, F_3 から得られる応力の重ね合せとして与えらる。

$$A = \frac{4k e^{-\alpha b}}{\sinh 2\alpha b + 2\alpha b} \left\{ \left(\frac{2}{1+\mu} + \frac{1}{1+\mu} \alpha b + \alpha^2 b^2 \right) \sinh \alpha c - (1+\alpha^2 b) \alpha c \cosh \alpha c \right\} \sinh \alpha b + \left\{ \left(\frac{2}{1+\mu} + \alpha b \right) \sinh \alpha c - \alpha c \cosh \alpha c \right\} \alpha b \cosh \alpha b$$

$$B = \frac{-4k e^{-\alpha b}}{\sinh 2\alpha b + 2\alpha b} \left\{ \left(\frac{1-\mu}{1+\mu} + \alpha b \right) \sinh \alpha c - \alpha c \cosh \alpha c \right\} \cosh \alpha b + \left\{ \left(\frac{2}{1+\mu} + \alpha b \right) \sinh \alpha c - \alpha c \cosh \alpha c \right\} \sinh \alpha b \quad \kappa = \nu \quad \kappa = \frac{(1+\mu)P}{4\pi h}$$

ロ. 床版端部に対称に水平せん断力が作用する場合 (図-4)

シともイと同様、 x 軸対称の問題から (3) 式の応力関数を用いる。一方境界上の荷重 P は (4) 式で表せる。

$$P(x) = \frac{P}{\pi} \int_0^{\infty} \cos \alpha x \, d\alpha \dots \dots (4) \quad \text{従って (3) 式の } A, B \text{ と } y=b \text{ の境界条件 } (\sigma_y)_{y=b} = -\frac{1}{\pi} P(x), (\tau_{xy})_{y=b} = 0$$

から決まると $A = \frac{2P}{\pi h} \frac{\sinh \alpha b + \alpha b \cosh \alpha b}{\sinh 2\alpha b + 2\alpha b}, \quad B = \frac{-2P}{\pi h} \frac{\sinh \alpha b}{\sinh 2\alpha b + 2\alpha b}$

それ故、図-4 の荷重状態での応力分布を示す応力関数は与えらる。

b. 非対称せん断力が作用した場合 (図-5, b)

イ. 水平せん断力が版内にある場合 (図-5)

この場合、(3) 式の応力関数はそのまま使用出来る。

次に $y=b, -d$ における境界条件を満たすべく応力関数 F_4 を導入する。

$$F_4 = \int_0^{\infty} \frac{1}{\alpha^2} (A \cosh \alpha y + B \alpha y \sinh \alpha y + C \sinh \alpha y + D \alpha y \cosh \alpha y) \cos \alpha x \, d\alpha$$

$$\therefore \sigma_{yx} = \frac{\partial^2 F_4}{\partial x^2} = - \int_0^{\infty} [A \cosh \alpha b + B \alpha b \sinh \alpha b + C \sinh \alpha b + D \alpha b \cosh \alpha b] \cos \alpha x \, d\alpha \quad \text{at } y=b, \quad y=-d \text{ についても同様。}$$

$$\tau_{xy} = \frac{\partial^2 F_4}{\partial x \partial y} = \int_0^{\infty} [(A+B) \sinh \alpha b + B \alpha b \cosh \alpha b + (C+D) \cosh \alpha b + D \alpha b \sinh \alpha b] \sin \alpha x \, d\alpha$$

一方 (2) 式から得られる応力は $\sigma_{yx} = \frac{\partial^2 F_2}{\partial x^2} = -2k \int_0^{\infty} \left(\frac{2+\mu}{1+\mu} - \alpha x \right) e^{-\alpha x} \sin \alpha c \cos \alpha b \, d\alpha \quad \text{at } y=b$

$$\tau_{xy} = \frac{\partial^2 F_2}{\partial x \partial y} = 2k \int_0^{\infty} \left(\frac{2-\mu}{1+\mu} - \alpha x \right) e^{-\alpha x} \sin \alpha c \sin \alpha b \, d\alpha$$

従って $y=b, y=-d$ の条件 $\sigma_{yx} = 0, \tau_{xy} = 0$ から $A \sim D$ の係数は求めらる。フーリエ積分定理を用いて結局、係数を求める以下の連立方程式が得らる

$$k \left\{ \left[\frac{2}{1+\mu} + \beta(b+c) \right] e^{-\beta(b+c)} - \left[\frac{2}{1+\mu} + \beta(b-c) \right] e^{-\beta(b-c)} \right\} + (A \cosh \alpha b + B \alpha b \sinh \alpha b + C \sinh \alpha b + D \alpha b \cosh \alpha b) = 0 \dots (5)$$

$$k \left\{ \left[\frac{2}{1+\mu} + \beta(d+c) \right] e^{-\beta(d+c)} - \left[\frac{2}{1+\mu} + \beta(d-c) \right] e^{-\beta(d-c)} \right\} + (A \cosh \alpha d + B \alpha d \sinh \alpha d - C \sinh \alpha d - D \alpha d \cosh \alpha d) = 0 \dots (6)$$

$$k \left\{ \left[\frac{1-\mu}{1+\mu} + \beta(b+c) \right] e^{-\beta(b+c)} - \left[\frac{1-\mu}{1+\mu} + \beta(b-c) \right] e^{-\beta(b-c)} \right\} - A \sinh \alpha b - B (\sinh \alpha b + \beta b \cosh \alpha b) - (C \cosh \alpha b - D (\cosh \alpha b + \beta b \sinh \alpha b)) = 0 \dots (7)$$

$$k \left\{ \left[\frac{1-\mu}{1+\mu} + \beta(d+c) \right] e^{-\beta(d+c)} - \left[\frac{1-\mu}{1+\mu} + \beta(d-c) \right] e^{-\beta(d-c)} \right\} - A \sinh \alpha d - B (\sinh \alpha d + \beta d \cosh \alpha d) + (C \cosh \alpha d + D (\cosh \alpha d + \beta d \sinh \alpha d)) = 0 \dots (8)$$

これから得らる $A \sim D$ F_4 に代入し更に F_2 と重ね合せることにより、図-5 の応力分布を表わす応力関数が与えらる。

ロ. 水平せん断力の一方が境界 $y=c$ 上にある場合 (図-6)

この場合は前述の問題で $b=c$ とし更に $y=c$ の境界において $\sigma_y = -\frac{1}{\pi} P(x), \tau_{xy} = 0$ の条件を満たすようにすれば良い。こゝに $P(x)$ は (4) 式で与えらる。従って (5) 式は次の通りである。

$$k \left\{ \left[\frac{2}{1+\mu} + \beta(c+c) \right] e^{-2\beta c} - \frac{2}{1+\mu} \right\} + (A \cosh \beta c + B \beta c \sinh \beta c + C \sinh \beta c + D \beta c \cosh \beta c) = -\frac{P}{\pi h} \dots (9)$$

(6) 式~(8) 式については左辺で $b=c$ とすれば良く右辺はそのままである。

3. 有効中の計算。以上各種せん断力が版内に働く場合の応力関数を求めた。図1の様な合成トラスに任意の荷重が載荷された場合の版内の応力は上記の応力関数を用いて重ね合せの形で得らる。有効中入は一般に入 $= \int_0^{\infty} \sigma_y \, dx / \sigma_{y \max}$ で与えらる非常に労力の要する計算であるから電子計算機を用いた方が良い。ある例に於いて数値計算を行つたのである。

参考文献; * K. Grünkamm; Flächentragwerke. → XIII Band.
 ; Angriff von Einzelastern in der streifenförmigen Scheibe, Ingenieur Archiv 1942.